

レガシーシステムはGerald A. Niznick氏によって設計、開発されたスクリーインプラントの特徴であるInternal Hex connection(内部六角構造)とチタン合金(Ti-6Al-4V)を継承しつつ、いくつかの変更が同氏によってなされている。最も大きな変更はFriction Fit(フィクスチャーとアバットメントの接合部分をテーパ付与した摩擦嵌合様式)をなくすことで、これにより臨床的な操作性の改善に一役買っている。また、アバットメント接合部の外周にミニスレッドを付与することで埋入時のストレスを軽減し、骨のダウングロスの抑制を図った。さらに、ボディ部のTriple lead threadをDouble lead threadとすることによりフィクスチャー内部のみならず骨組織に対するストレスの軽減も図っている。さらに、Legacy2はスレッドの外側と内側のテーパ角が5°、Legacy3はテーパ角が3°のバットレススレッド(図1)を付与し先端はベントをなくして山谷を深くすることで高い初期固定を実現しうる構造となっている。

レガシー2, 3:直径が3.2, 3.7, 4.2, 4.7, 5.2, 5.7, 7.0φの7種類、長さが6, 8, 10, 11.5, 13, 16mmLの6種類と、豊富なサイズバリエーションがあることも新たな特徴であり、2016年7月よりレガシー2, 3はHAコーティングタイプ(図2)が販売され、治療期間の短縮と、脆弱骨や抜歯即時埋入など適応症が拡大された。

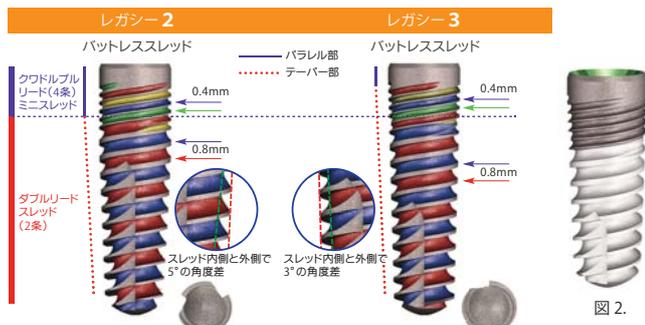


図1. Legacy2およびLegacy3ではスレッドの内側と外側にテーパ角で5°および3°の変化を持たせ、先端のスレッドの深さを大きくすることで、骨への固定を高める。

症例供覧 今回レガシー2、レガシー3 HAタイプの臨床例を紹介する

**症例1** 59歳 女性 主訴 歯を入れてほしい。図3~5術前口腔内写真。



図3. 図4. 図5.

CT, およびX線写真の診断から(図6, 7) 水平的にも垂直的にも十分な骨量が確認できたが、骨質はLekholm & Zarbの分類でタイプIII相当、Mischの骨密度の分類でD3~D4で脆弱骨であることが予想された。

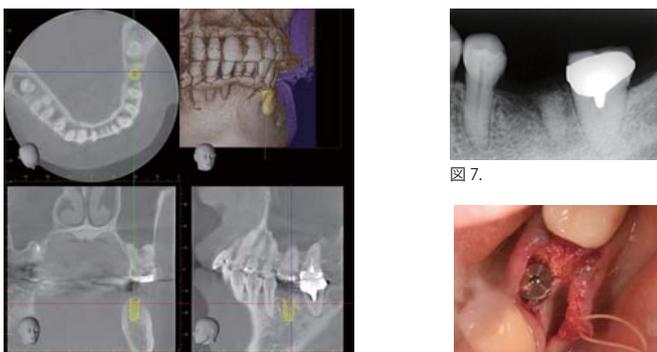


図6. 図7. 図8. インプラント埋入時

実際のドリリング時にも骨質は脆弱であると感じ、5.1φを最終ドリルとしレガシー3 直径5.7φ 長さ10mm HAインプラントを埋入したが(図8)、十分な初期固定を得られない状態であった。

免荷3ヶ月を経て二次手術を行い、インプラントの固定を確認。プロビ

ジオナルクラウンを装着し、2週間経過観察の後、上部構造の印象および最終補綴物の作製を行った。最終補綴物はジルコニアクラウンで暫間セメントにて仮着した(図9~11)。



図9. 図10. 図11.

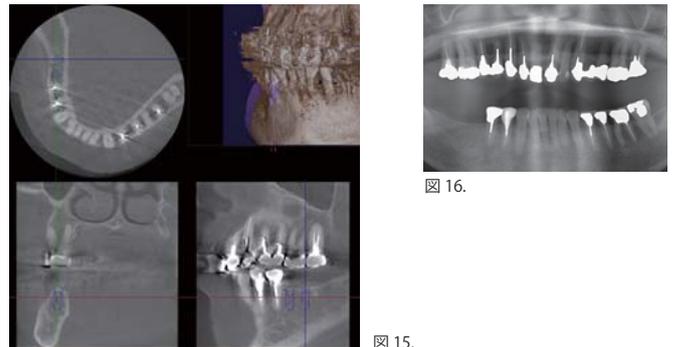
審美、機能ともに問題なく、4か月に一度のメンテナンスを行っている。

**症例2** 64歳 女性 主訴 右下 インプラント治療希望  
初診時 口腔内所見 右下6・7欠損(図12~14)



図12. 図13. 図14.

CT画像(図15)およびパノラマX線画像(図16)から右下6・7欠損部にはインプラントを埋入可能な骨量が確認できたが、症例1と同様に骨質はLekholm & Zarbの分類でタイプIV相当、Mischの骨密度の分類でD3と脆弱骨であった。



治療経過

右下6・7部に浸潤麻酔下でレガシー2 HA直径4.2φ 長さ10mmを埋入した(図17)。免荷3ヶ月を経て、二次手術、インプラントの固定を確認しプロビジョナルクラウンを装着。2週間経過観察の後、症例1と同様に最終補綴物の作製を行った。最終補綴物はジルコニアクラウンで暫間セメントにて仮着した(図18~21)。



図17. 埋入直後パノラマX線写真

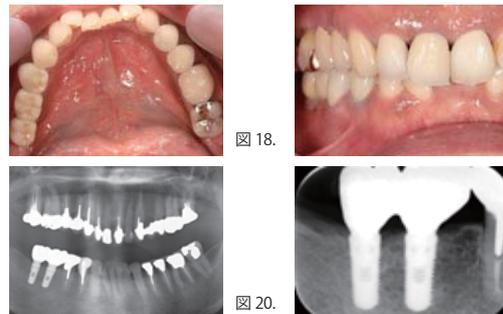


図18. 図19. 図20. 図21.

まとめ

レガシー2, 3 HAコーティングを使用した臨床的な実感としては、テーパードボディにバットレススレッドを用いたことにより、脆弱骨においてもインテグレーションが達成できた。さらにHAコーティングが効率よくコーティングされており、より確実な骨統合が期待できるデザインと思われる。特に脆弱骨や抜歯即時埋入などにおいて安心して適応できるインプラントである。